

1. 学歴

1967年 3月 東京大学教育学部卒業
1970年 4月 同大学院経済学研究科修士課程入学
1972年 3月 同修了
1972年 4月 同博士課程入学
1977年 4月 同満期退学
1982年 6月 同経済学博士の学位取得

2. 職歴・研究歴

1982年 4月 明治学院大学経済学部助教授
1988年 4月 同教授
1990年 4月 一橋大学経済学部教授
1996年 10月 ブレーメン大学国際経済研究所客員研究員 (1997年3月まで)
1998年 4月 一橋大学大学院経済学研究科教授
2001年 7月 オルデンブルク大学客員教授 (2001年9月まで)

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

経済史 A

(b) 大学院

西洋経済史

B. ゼミナール

学部後期, 大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

学部講義の「経済史 A」では大月康弘教授とともに講義を担当し、大月教授は主に西洋中世史、私は主に西洋近代史を担当する。とくにマルサスの人口論やボズラップの農業成長論を手がかりに人口、食糧生産および経済発展の相互関連をマクロ的視点から明らかにすることに重点を置いている。

学部ゼミでは、西洋経済史のうちとくに環境と経済発展のかかわりについて、グローバルな視点から邦語および英語文献の購読をつうじて学ぶことにしている。歴史だけでなく、現代の問題にも関心をもってもらうため、「世界環境白書」や OECD の刊行物も利用している。

大学院の講義は、主に入学したばかりの修士 1 年生にドイツ語文献の読み方を習得させるという目的で、主にドイツ語文献を用いて西洋経済史研究の基礎を教えている。

4. 主な研究テーマ

(1) 近代ドイツ環境経済史

とくに近代における西北ドイツの農地開発の影響を研究しており、具体的には北海沿岸の干拓地造成と内陸の湿原開発の歴史を実証的に研究している。

(2) ヨーロッパ農業・農村史

上記の環境経済史と関連で、イギリス、オランダおよびドイツの経済発展の違いがどのような歴史的事情に根ざすものなのか、とくに農業発展の違いに注目して、比較史的研究を進めているところである。ヨーロッパ農業史にかんする日本人研究者が減少しているため、その対策として「ヨーロッパ農村史研究会」の発足を進めている。

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

『近代ドイツ農村社会経済史』 未来社, 1984年, 292頁。

『都市と市民社会』 青木書店, 1988年, 313頁。

『狂気の近代』 花伝社, 1988年, 174頁。

『手工業の名誉と遍歴職人』 未来社, 1994年, 320頁。

(b) 論文 (査読つき論文には*)

* 「東ドイツ農村労働者の国内移動」 『社会経済史学』 39-1, 1973年, 37-62頁。

* 「西南ドイツにおける初期労働者農夫の生成」 福島大学 『商学論集』 42-3, 1974年, 106-162頁。

* 「西北ドイツ農村における「社会問題」の展開」 福島大学 『商学論集』 46-2, 1977年, 96-160頁。

「西南ドイツ「市民社会」と「プロレタリアート」」 東京都立大学 『人文学報』 127, 1978年, 37-100頁。

「オーデンヴァルト農村の運動」 良知力編 『1848年革命の研究』 大月書店, 1979年, 231-264頁。

「ドイツ社会経済史研究の最近の動向」 『土地制度史学』 84, 1979年, 57-61頁。

* 「18世紀後半のザウアーラントにおける「都市の復興」」 『土地制度史学』 87, 1980年, 46-61頁。

「19世紀前半における工業都市イザーローンの社会構造」 明治学院大学 『経済研究』 64号, 1982年, 1-50頁。

「Landgemeinde im deutschen Vormarx」, 明治学院大学 『経済研究』 65号, 1982年, 151-169頁。

「1848×49年の都市イザーローンの反乱」 明治学院大学 『経済研究』 66号, 1982年, 1-34頁。

「19世紀後半におけるマルク工業諸都市への人口流入」 明治学院大学 『経済研究』 71号, 1984年, 91-139頁。

「19世紀後半におけるマルク工業諸都市の社会層構成」 明治学院大学 『経済研究』 74号, 1985年, 143-186頁。

「19世紀後半におけるマルク工業諸都市の結社と市民自治」 明治学院大学 『法学研究』 37号, 1986年, 9-64頁。

「世界経済と国民経済 世界システム論に関連して」 明治学院大学産業経済研究所 『研究所年報』 4号, 1987年 25-35頁。

「近代ドイツの国家と都市名望家」 『歴史学研究』 599, 1989年, 138-146頁。

「ドイツの東と西」 『創文』 315号, 1990年, 1-5頁。

「模索の時代の経済史」 『一橋論叢』 105-4, 1991年, 32-44頁。

「18世紀ドイツの職人遍歴」 『一橋論叢』 105-6, 1991年, 17-39頁。

- 「ヨーロッパ近代都市社会史研究の成果と課題」『歴史評論』500号,1991年12月,213-220頁。
- * 「ドイツにおける労働者階級形成論 ユルゲン・コッカの近著を手がかりに」(今井晋哉と分担執筆)『社会経済学』60-6,1995年,61-66,73-76頁。
- 「近代ドイツにおける農地開発」『一橋論叢』118-6,1997年,1-20頁。
- 「オルデンブルクの共有地分割と農地開発」一橋大学社会科学古典資料センター"Study Series" No.39,1998年,1-34頁。
- * 「19世紀オルデンブルクの農地開発による人口成長と集落の拡大」『土地制度史学』162,1999年,32-47頁。
- 「オルデンブルクのコロニー建設」一橋大学『研究年報 経済学研究』,1999年,3-46頁。
- 「19世紀初期の西北ドイツ北海沿岸低湿地(マルシュ)における農村景観と農業の特質」一橋大学『研究年報 経済学研究』,2001年,3-53頁。
- 「18-19世紀のオルデンブルク農村における土地保有権の移転」一橋大学『研究年報 経済学研究』,2004年,3-46頁。
- 「近代イギリスにおける牧羊の歴史的意義」『一橋論叢』,2005年,1-23頁。
- 「18-19世紀のオルデンブルク農村における土地保有者の階層構成」『一橋経済学』,2006年,1-21頁。

(c) 翻訳

- ヴェルナー・レーゼナー著『農民のヨーロッパ』平凡社,1995年,360頁。
- ゲルハルト・ドールン・ファン・ロッスム著『時間の歴史』(篠原敏昭,岩波敦子と共訳)大月書店,1999年,420頁。

(d) その他

- 「ゲジンデ」,「ユンカー」の項目,『歴史学事典 第10巻』弘文堂,2003年。
- 「ドイツ手工業」の項目,経営史学会編『外国経営史の基礎知識』有斐閣,2004年。

6. 学内行政

(a) 部所長・評議員等

評議員 (1993年4月-1995年3月)

(b) 学内委員会

古典資料センター運営委員 (2003年4月-)

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

早稲田大学大学院経済学研究科

(b) 参加学会および学術活動

社会経済史学会 (1995年5月より評議員)

土地制度史学会

歴史学研究会